【声明】

# 「慰安婦」問題など人間の尊厳を踏みにじる橋下大阪市長の発言に断固抗議し、その撤回と謝罪を強く求めます

２０１３年5月１５日

全日本教職員組合中央執行委員会

5 月 13 日、「日本維新の会」共同代表である橋下徹大阪市長が、「慰安婦制度というものが必要なのは誰だってわかる」などと発言したことは、旧日本軍「慰安婦」制度を正当化し、女性の人権、人間の尊厳そのものを踏みにじるものであり、到底許されるものではありません。

旧日本軍「慰安婦」問題は、第二次世界大戦時の日本軍による女性の人権侵害として、日本が解決を迫られている問題です。日本政府は、国連人権委員会や国連人権規約委員会、ＩＬＯ、国連女性差別撤廃委員会から再三「慰安婦」問題の解決を促す勧告を受けています。国際社会から「慰安婦」問題の最終解決を強く求められているのです。今回の発言は、こうした国際的な勧告への真っ向からの挑戦であり、日本の政治家としての資質が問われるものです。

また、「慰安婦」とされた方々は高齢化しており、一日も早い解決が求められています。今回の発言は、「慰安婦」とされた方々を深く傷つけるものです。

さらに、橋下大阪市長は、在日米軍司令官に対して米軍による性犯罪をとがめるのではなく、「風俗業を活用してほしい」と驚くべき発言をしていました。これらの発言について「日本維新の会」の共同代表である石原慎太郎氏は、14 日に「軍と売春はつきもので、歴史の原理みたいなものだ」と橋下氏を擁護する発言をしました。戦争遂行のために女性の性を利用することが当然であるかのような発言は、すべての女性、そして人間そのものを冒涜するもので、「日本維新の会」の政党としての資格が問われる大問題です。

「慰安婦」制度を正当化する橋下大阪市長の発言の根底には、侵略戦争を肯定する歴史観があります。憲法を変えて日本を「戦争する国」にしようとする意図が見えてきます。全教は、一貫して「教え子を戦場に送るな」のスローガンを掲げ、憲法と子どもの権利条約をいかそうと運動をすすめてきました。この間、橋下大阪市長は、教育に対して不当な介入を繰り返してきましたが、女性の人権を認めず人間の理性を否定し、人間の尊厳を踏みにじる人物に教育を語る資格はありません。

すべての子どもたちの成長・発達を願う立場から、満身の怒りをこめて、橋下大阪市長に対して断固抗議し、一連の「慰安婦」問題発言の即時撤回と謝罪を強く求めるものです。

以　　上